

【2025年12月号】

# 医薬品情報

2025年11月26日発行

1. 採用医薬品<11月薬事委員会における採用>

2025年12月3日（水）から処方入力して下さい。

① オセルタミビル錠 75mg 「トーワ」	1
② セタネオ点眼液 0.002% 【院外のみ】	3
2. 採用取り消し医薬品	4
3. 採用医薬品の見直し	4
4. 後発医薬品への変更について	6
5. 医薬品添付文書の改訂（2025年11月，DSU No. 340）	6
6. 医薬品・医療機器等安全性情報（2025年11月，No. 424）	7
7. 医療安全情報（2025年11月，No. 228）	8
8. 使用期限間近の医薬品リスト	10
9. 医薬品情報 抗体薬物複合体（ADC）について	11

問い合わせ先：独立行政法人地域医療機能推進機構 九州病院  
薬剤部 医薬品情報管理室 内線 2725



抗インフルエンザウイルス剤

## オセルタミビル錠 75mg 「トowa」

OSELTAMIVIR TABLETS 75mg “TOWA”  
(東和薬品)

薬価収載日	2023年12月8日
薬 価	107.70円

一 般 名 オセルタミビルリン酸塩錠

効能・効果 A型又はB型インフルエンザウイルス感染症及びその予防

<効能又は効果に関連する注意>

〈治療〉

1. A型又はB型インフルエンザウイルス感染症と診断された患者のみが対象となるが、抗ウイルス薬の投与がA型又はB型インフルエンザウイルス感染症の全ての患者に対しては必須ではないことを踏まえ、患者の状態を十分観察した上で、本剤の使用の必要性を慎重に検討すること。特に、幼児及び高齢者に比べて、その他の年代ではインフルエンザによる死亡率が低いことを考慮すること。

〈予防〉

2. 原則として、インフルエンザウイルス感染症を発症している患者の同居家族又は共同生活者である下記の者を対象とする。
  - ・ 高齢者（65歳以上）
  - ・ 慢性呼吸器疾患又は慢性心疾患患者
  - ・ 代謝性疾患患者（糖尿病等）
  - ・ 腎機能障害患者

〈効能共通〉

3. 本剤はA型又はB型インフルエンザウイルス感染症以外の感染症には効果がない。
4. 本剤は細菌感染症には効果がない。

用法・用量 〈治療〉

通常、成人及び体重37.5kg以上の小児にはオセルタミビルとして1回75mgを1日2回、5日間経口投与する。

〈予防〉

成人

通常、オセルタミビルとして1回75mgを1日1回、7～10日間経口投与する。

体重37.5kg以上の小児

通常、オセルタミビルとして1回75mgを1日1回、10日間経口投与する。

<用法及び用量に関連する注意>

〈治療〉

1. インフルエンザ様症状の発現から2日以内に投与を開始すること。症状発現から48時間経過後に投与を開始した患者における有効性を裏付けるデータは得られていない。

〈予防〉

2. インフルエンザウイルス感染症患者に接触後2日以内に投与を開始すること。接触後

48時間経過後に投与を開始した場合における有効性を裏付けるデータは得られていない。

3. インフルエンザウイルス感染症に対する予防効果は、本剤を連続して服用している期間のみ持続する。

〈効能共通〉

4. 成人の腎機能障害患者では、血漿中濃度が増加するので、腎機能の低下に応じて、次のような投与法を目安とすること（外国人における成績による）

クレアチニンクリアランス (mL/分)	投与法	
	治療	予防
Ccr > 30	1回 75mg 1日 2回	1回 75mg 1日 1回
10 < Ccr ≤ 30	1回 75mg 1日 1回	1回 75mg 隔日
Ccr ≤ 10	推奨用量は確立していない	

Ccr：クレアチニンクリアランス

禁 忌 （次の患者には投与しないこと）

1. 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

重大な副作用 1. ショック、アナフィラキシー（頻度不明）

蕁麻疹、顔面・喉頭浮腫、呼吸困難、血圧低下等があらわれた場合には投与を中止し適切な処置を行うこと。

2. 肺炎（頻度不明）

異常が認められた場合にはX線等の検査により原因（薬剤性、感染性等）を鑑別し、適切な処置を行うこと。

3. 劇症肝炎、肝機能障害、黄疸（頻度不明）

重篤な肝炎、AST、ALT、 $\gamma$ -GTP、Al-Pの著しい上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがある。

4. 皮膚粘膜眼症候群（Stevens-Johnson症候群）、中毒性表皮壊死融解症（Toxic Epidermal Necrolysis：TEN）（頻度不明）

5. 急性腎障害（頻度不明）

6. 白血球減少、血小板減少（頻度不明）

7. 精神・神経症状、異常行動（頻度不明）

精神・神経症状（意識障害、譫妄、幻覚、妄想、痙攣等）があらわれることがある。因果関係は不明であるものの、インフルエンザ罹患時には、転落等に至るおそれのある異常行動（急に走り出す、徘徊する等）があらわれることがある。

8. 出血性大腸炎、虚血性大腸炎（頻度不明）

血便、血性下痢等の異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

二環式プロスタグランジン誘導体  
緑内障・高眼圧症治療剤

## セタネオ点眼液 0.002%

SETANEO ophthalmic solution  
(参天製薬)

薬価収載日	2025年10月22日
薬 価	800円/mL

一 般 名 セペタプロスト点眼液

効能・効果 緑内障、高眼圧症

用法・用量 1回1滴、1日1回点眼する。

### 重要な基本的注意

1. 本剤の投与により、虹彩や眼瞼への色素沈着（メラニンの増加）による色調変化、あるいは眼周囲の多毛化があらわれることがある。これらは投与の継続によって徐々に進行し、投与中止により停止する。眼瞼色調変化及び眼周囲の多毛化については、投与中止後徐々に消失、あるいは軽減する可能性があるが、虹彩色調変化については投与中止後も消失しないことが報告されている。混合色虹彩の患者では虹彩の色調変化は明確に認められるが、暗褐色の単色虹彩の患者（日本人に多い）においても変化が認められている。特に片眼投与の場合、左右眼で虹彩の色調に差が生じる可能性がある。これらの症状については、長期的な情報が十分に得られていないので、患者を定期的に診察し、十分観察すること。投与に際しては、これらの症状について患者に十分説明し、また、眼瞼色調変化、眼周囲の多毛化の予防あるいは軽減のため、投与の際に液が眼瞼皮膚等についた場合には、よくふき取るか、洗顔するよう患者を指導すること。
2. 角膜上皮障害（点状表層角膜炎、糸状角膜炎、角膜びらん）があらわれることがあるので、しみる、そう痒感、眼痛等の自覚症状が持続する場合には、直ちに受診するよう患者に指導すること。

禁 忌 (次の患者には投与しないこと)

1. 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

重大な副作用 1. 虹彩色素沈着 (0.3%)

## 2. 採用取り消し医薬品

- (1) オセルタミビルカプセル 75mg「サワイ」  
 [オセルタミビル錠 75mg「トーワ」へ切り替え]

## 3. 採用医薬品の見直し (2025年度)

採用医薬品の見直しの結果、

①下記 17 品目が限定採用から正式採用となりました。

薬効分類	番号	医薬品名
B 循環器官用薬	1	リオナ錠 250 mg
C 呼吸器官用薬	2	ムコフィリン吸入液 20%
	3	デュピクセント皮下注 300 mgペン
D 消化器官用薬	4	リパクレオンカプセル 150 mg
E 解熱・鎮痛・抗炎症薬	5	ナイキサン錠 100 mg
G ホルモン	6	フェソロデックス筋注 250 mg
H ビタミン	7	デノタスチュアブル配合錠
	8	ホスリボン配合顆粒
I 栄養輸液電解質製剤	9	エクストラニール腹膜透析液 UV ツインバッグ <sup>®</sup> 1500mL
	10	エクストラニール腹膜透析液 シングル B 機器 2000mL
K 代謝性医薬品	11	トラゼンタ錠 5 mg
	12	ピタバスタチン CaOD 錠 2 mg
L 漢方製剤	13	ツムラ五苓散エキス顆粒
N 感染症治療薬	14	カンサイダス点滴静注用 70 mg
	15	カンサイダス点滴静注用 50 mg
P 耳鼻・口腔用薬	(3)	デュピクセント皮下注 300 mgペン
Q 泌尿生殖器用薬	16	デュタステリド錠 0.5 mg A V
	17	ベタニス錠 50 mg
R 皮膚科用薬	(3)	デュピクセント皮下注 300 mgペン

②下記 13 品目が採用取消となりました。

処方する際は、『限定採用医薬品申請書』の提出をお願いします。

薬効分類	番号	医薬品名
A 神経系用剤	1	アキネトン錠 1 mg
	2	エシタロプラム錠 10 mg
	3	グラндаキシン錠 50 mg
	4	パキシルCR錠 12.5 mg
G ホルモン	5	ゾラデックスデポ 3.6 mg
	6	リュープリンキット 1.88 mg
J 血液血管作用薬	7	エスポー皮下用シリンジ 24000 単位→限定
	8	サルボグレラート錠 100 mg→院外のみ限定
M 抗がん薬	(5)	ゾラデックスデポ 3.6 mg
	9	ピノルビン 10
	10	ピノルビン 20
	(6)	リュープリンキット 1.88 mg
N 感染症治療薬	11	ハベカシン注 100 mg
R 皮膚科用薬	12	イオウ・カンフルローション
	13	マイザークリーム (5g)

③下記 11 品目が院外採用のみとなりました。

院内で処方する際は、『限定採用医薬品申請書』の提出をお願いします。

薬効分類	番号	医薬品名
A 神経系用薬	1	アマンタジン錠 50mg
	2	ケタスカプセル 10mg
C 呼吸器官用薬	3	オフェブカプセル 100 mg
	4	オフェブカプセル 150mg
E 解熱・鎮痛・抗炎症薬	5	アドフィードパップ 40 mg (7 枚入り)
	6	ジクロフェナク Na ゲル (50g)
G ホルモン	7	チウラジール錠 50 mg
K 代謝性医薬品	8	キネダック錠 50 mg
M 抗がん薬	9	アナストロゾール錠 1 mg
R 皮膚科用薬	10	オキサロール軟膏 (10g)
V その他	11	ストロメクトール錠 3mg

- ④「レボセチリジン錠 5 mg」から「レボセチリジン錠 2.5 mg」へ切り替えとなりました。  
(腎機能 CCr<79 で 5 mgから 2.5 mgへ減量となるため)

※『限定採用医薬品申請書』は、オーダーリング端末にログイン後「部門システム」の「医薬品情報」内フォルダの「申請書」に格納しています。

## 4. 後発医薬品への変更について

先発医薬品	後発医薬品
フリバス OD 錠 50mg (旭化成ファーマ) 薬価：36.5 円	ナフトピジル OD 錠 50mg 「タカタ」 (高田製薬) 薬価：10.4 円

## 5. 医薬品添付文書の改訂 (DSU No.340 より)

★：警告、◎：投与禁忌、併用禁忌、○：重要な基本的注意、重大な副作用

### 1) アミティーザカプセル (ヴィアトリス製薬)

○：重大な副作用 (新設)

アナフィラキシー

### 2) イムデトラ点滴静注用 (アムジェン)

★：警告 (一部改訂)

重度のサイトカイン放出症候群及び神経学的事象 (免疫エフェクター細胞関連神経毒性症候群を含む) があらわれることがあり、サイトカイン放出症候群では死亡に至った例も報告されているので、本剤の投与にあたっては、以下の事項に注意すること。

1 特に治療初期は入院管理等の適切な体制下で本剤の投与を行うこと。

2 重度のサイトカイン放出症候群があらわれることがあるので、サイトカイン放出症候群に対する前投与薬の投与等の予防的措置を行うとともに、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、製造販売業者が提供するサイトカイン放出症候群管理ガイダンス等に従い、適切な処置を行うこと。

3 重度の神経学的事象 (免疫エフェクター細胞関連神経毒性症候群を含む) があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、製造販売業者が提供する免疫エフェクター細胞関連神経毒性症候群管理ガイダンス等に従い、適切な処置を行うこと。

### 3) シングリックス筋注用 (グラクソ・スミスクライン)

○：重大な副反応 (追記)

ギラン・バレー症候群：

四肢遠位から始まる弛緩性麻痺、腱反射の減弱ないし消失等の症状があらわれることがある。

## 6. 医薬品・医療機器等安全性情報

オーダーリング端末にログイン後、「部門システム」の「医薬品情報」内フォルダの「安全性情報」に格納していますので、ご覧下さい。医薬品・医療機器等安全性情報 (No.424 2025年11月)

# 医薬品・医療機器等 安全性情報

Pharmaceuticals  
and  
Medical Devices  
Safety Information

No.424

### 目次

1. 医薬品副作用被害救済制度の概要と 制度への協力をお願いについて	3
2. 在宅酸素療法中の火災事故について	18
3. 妊娠中の解熱鎮痛薬の服用に関する情報提供について	22
4. 重要な副作用等に関する情報	24
❶ ルビプロストン	24
5. 使用上の注意の改訂について (その364) ルビプロストン 他3件	26
6. 市販直後調査の対象品目一覧	28

この医薬品・医療機器等安全性情報は、厚生労働省において収集された副作用等の情報を基に、医薬品・医療機器等のより安全な使用に役立てていただくために、医療関係者に対して情報提供されるものです。医薬品・医療機器等安全性情報は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構ホームページ (<https://www.pmda.go.jp/>)又は厚生労働省ホームページ (<https://www.mhlw.go.jp/>)からも入手可能です。

配信一覧はコチラ



PMDAメディアナビで医薬品・医療機器等安全性情報を迅速に入手できます。

厚生労働省、PMDAからの安全性に関する情報をメールで配信しています。登録いただくと、本情報も発表当日に入手可能です。



令和7年(2025年)11月

厚生労働省 医薬局

●連絡先

☎100-8916 東京都千代田区霞が関1-2-2

厚生労働省医薬局医薬安全対策課

☎ { 03-3595-2435 (直通)  
03-5253-1111 (内線) 2757, 2667  
(Fax) 03-3508-4364

## 7. 医療安全情報

医療安全情報（No. 228 2025年11月）【粉砕調製された持参薬の過量与薬】が、日本医療機能評価機構より、出されました。同情報は、電子カルテのメニュー内、[\[その他参照\] → 届出報告マニュアル等 → 医療安全フォルダ → 医療安全情報 → 医療機能評価機構の安全情報フォルダ](#)に格納していますので、ご覧下さい。

医療事故情報収集等事業

# 医療安全情報

2025年11月 No.228

## 粉砕調製された持参薬の過量与薬

粉砕調製された持参薬の薬包の表記が統一されていないため、患者に過量に与薬した事例が報告されています。

2021年1月1日～2025年9月30日に2件の事例が報告されています。この情報は、第81回報告書「分析テーマ」で取り上げた内容をもとに作成しました。

!

薬包の表記は医療機関や薬局によって異なります。粉砕調製された持参薬を使用する際は、薬包1包あたりの薬剤の量を確認してください。

**事例のイメージ**

薬局で調剤された薬袋・薬包

内服薬

〇〇〇〇様  
1日4回 毎食前・就寝前

カロナール錠200 200mg 1回5錠

医薬品マスターの品名を印字

カロナール錠 200  
200mg

※薬包1包に200mg 5錠分（1000mg）を粉砕調製

## 粉碎調製された持参薬の過量与薬

### 事例

患者が入院した際、1包にカロナール200mg 5錠分(1000mg)が粉碎調製された薬包を持参した。薬包に印字されていた「カロナール錠 200mg」は調剤した薬局が使用している医薬品マスターの品名であり、1包あたりの薬剤の量は記載されていなかった。薬剤師は、持参薬報告書の備考欄に「1包=5錠=1000mg」と記載したが、看護師は見えていなかった。患者に1回1000mgを与薬する際、看護師は薬包の印字を見て、1包あたりの薬剤の量が200mgだと思い、5包(5000mg)を胃瘻から注入した。

### 事例が発生した医療機関の取り組み

#### ●薬包の表記は、医療機関や薬局によって異なることを周知する。

上記は一例です。自施設に合った取り組みを検討してください。

### 取り組みのポイント

#### ○粉碎調製された持参薬の薬包は表記が統一されていないため、薬包1包あたりの薬剤の量を確実に把握してから使用しましょう。

(総合評価部会)

※この医療安全情報は、医療事故情報収集等事業(厚生労働省補助事業)において収集された事例をもとに、本事業の一環として総合評価部会委員の意見に基づき、医療事故の発生予防、再発防止のために作成されたものです。本事業の趣旨等の詳細については、本事業ホームページをご覧ください。 <https://www.med-safe.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。

※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。



公益財団法人 **日本医療機能評価機構** 医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル  
電話：03-5217-0252(直通) FAX：03-5217-0253(直通)  
<https://www.med-safe.jp/>

## 8. 使用期限間近の医薬品リスト

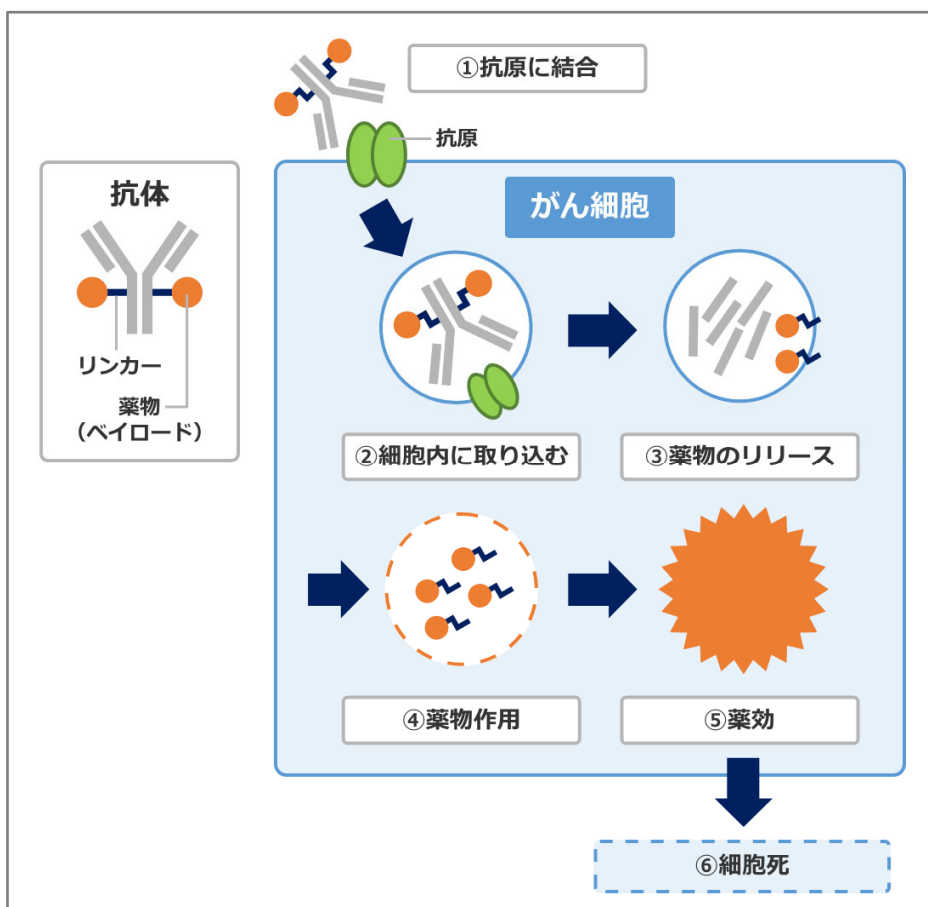
(2025年11月現在)

年	月	医薬品名	個数	薬価	在庫 金額	年間 使用量
7	12	アジレクト錠 1mg	59	945	3,511	102
		アラセナーA点滴静注用 300mg	3	5,996	17,988	0
		エンシュア・リキッド(ストロベリー)	24	177.5	4,260	474
		ツロブテロールテープ 0.5mg	43	13.3	572	337
		ノボラピッド 30 ミックス注 フレックスペン	2	1,445	2,890	44
		バップフォー錠 20	65	41.4	2,691	22
		パルミコート 200 $\mu$ g タービュヘイラー112 吸入	1	1,138.6	1,139	1
		フロリネフ錠 0.1mg	15	207.5	3,113	257
		ヘパン ED 配合内用剤	14	338.4	4,738	141
		ヘルベッサ注射用 50	12	561	6,732	27
		ミラクリッド注射液 10万単位	2	1,436	2,872	9
		リフヌア錠 45mg	27	187.4	5,060	54
8	1	エンレスト粒状錠小児用 12.5mg	40	21.4	856	84
		エンレスト粒状錠小児用 31.25mg	112	43.2	4,838	40
		サンドスタチン LAR 筋注用キット 20mg	1	106,396	106,396	0
		シグニフォーLAR 筋注用キット 40mg	1	351,593	351,593	5
		ジゴシン錠 0.25mg	192	10.1	1,939	24
		ドパストン散 98.5%	0.6	4,860	2,916	0.02
		ネオフィリン原末	1	960	960	0
		ピシバニール注 1KE	2	5,815	11,630	2
		メトピロンカプセル 250mg	10	1,155.6	11,556	0
	2	カバサール錠 1.0mg	80	112.1	8,968	18
		キロサイドN注 400mg	17	2,258	38,386	37
		ソル・コーテフ注射用 500mg	12	1,100	13,200	208
		セレスタミン配合錠	424	8	3,392	324
		プラスチックベース	0.3	5,020	1,506	0.98
		ラジカット注 30mg	8	1,889	15,112	68
		ラシックス注 20mg	50	10	500	0
		リドカイン静注用 2%シリンジ 100mg	5	176	880	23
		献血ノンスロン 1500 注射用	4	54,896	219,584	2

## 9. 医薬品情報 抗体薬物複合体（ADC）について

近年、がん治療の新たな選択肢としてADC（antibody-drug conjugate、抗体薬物複合体）が注目されています。ADCとは、抗体に細胞障害性抗がん剤（ペイロード）をリンカーで結合させた、バイオ医薬品の一種です。ADCの採用機序は、図1のように①がん細胞表面の標的部位に抗体が結合、②細胞内へ取り込む、③細胞内の酵素によりリンカーが切断、④⑤遊離した抗がん剤が抗腫瘍効果を発揮し、がん細胞を破壊します。細胞選択的に薬物を直接がん細胞内に届けることができるため、副作用を抑えつつ、高い抗腫瘍効果を発揮できます。また、破壊されたがん細胞から活性化した抗がん剤が飛散し、周囲のがん細胞にも抗腫瘍効果を示すことが報告されています。

図1. ADCの作用機序



ADCの問題点は、①コストが高額、②副作用対策、③薬剤耐性化のリスクなどがあります。副作用の軽減が期待されるとは言え、一般的なものから薬剤特有のものまで多岐にわたり発生し、近年は眼障害を有するADCも増加してきています。そのため、使用薬剤ごとの副作用対策が重要になってきます。

今回は、現在当院で採用されているADCの特徴について表1にまとめましたのでご参照ください。

表 1. 当院採用の ADC 一覧 (2025 年 11 月現在)

商品名 (一般名)	薬価	適応がん種	標的部位/薬物	特徴的な副作用
テブダック <sup>®</sup> (チソツマブ ベドチン)	252, 241 円/瓶	子宮頸がん	TF (組織因子) / 微小管重合阻害薬 (MMAE)	眼障害 <sup>※1</sup> 、末梢神経障害
ベスボンサ <sup>®</sup> (イノツズマブ オゾガマイシン)	1, 331, 297 円/瓶	CD22 陽性急性リンパ性白血病	CD22/細胞障害性薬物 (オゾガマイシン)	静脈閉塞性肝疾患 (VOD) / 類洞閉塞症候群 (SOS)
マイロターグ <sup>®</sup> (ゲムツズマブ オゾガマイシン)	201, 015 円/瓶	CD33 陽性急性骨髄性白血病	CD33/細胞障害性薬物 (オゾガマイシン)	静脈閉塞性肝疾患 (VOD) 出血、感染症、肺障害
アドセトリス <sup>®</sup> (プレッツキシマブ ベドチン)	388, 958 円/瓶	CD30 陽性ホジキンリンパ腫 CD30 陽性末梢性 T 細胞リンパ腫 CD30 陽性皮膚 T 細胞リンパ腫	CD30/微小管重合阻害薬 (MMAE)	末梢神経障害、骨髄抑制
ポライビー <sup>®</sup> (ボラツズマブ ベドチン)	30mg: 254, 001 円/瓶 140mg: 1, 159, 681 円/瓶	びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫	CD79b/微小管重合阻害薬 (MMAE)	末梢神経障害、骨髄抑制
トロデルビ <sup>®</sup> (サシツズマブ ゴビテカン)	187, 195 円/瓶	トリプルネガティブ乳がん	TROP-2/トポイソメラーゼ I 阻害薬 (SN-38)	骨髄抑制、下痢
ダトロウェイ <sup>®</sup> (ダトボタマブ デルクステカン)	311, 990 円/瓶	ホルモン受容体陽性かつ HER2 陰性乳がん	TROP-2/トポイソメラーゼ I 阻害薬 (DXd)	眼障害 <sup>※2</sup> 、間質性肺炎、 骨髄抑制、口内炎
エンハーツ <sup>®</sup> (トラスツズマブ デルクステカン)	192, 652 円/瓶	HER2 陽性乳がん、胃がん、 非小細胞肺がん	HER2/トポイソメラーゼ I 阻害薬 (DXd)	間質性肺炎、骨髄抑制、 心障害
カドサイラ <sup>®</sup> (トラスツズマブ エムタンシン)	100mg: 235, 820 円/瓶 160mg: 375, 077 円/瓶	HER2 陽性乳がん	HER2/微小管重合阻害薬 (DM1)	間質性肺炎、肝機能障害、 心障害、血小板減少、末梢神経障害
パドセブ <sup>®</sup> (エンホルツマブ ベドチン)	91, 444 円/瓶	尿路上皮がん	Nectin-4/微小管重合阻害薬 (MMAE)	皮膚障害、高血糖、 末梢神経障害、間質性肺炎

【眼障害のアイケア対策】 原則、コンタクトレンズの装着は控える

※1 眼科医との連携の下で使用すること。

副腎皮質ステロイド点眼剤 (フルメトロン、リンデロン) : 投与前日から Day3 まで

血管収縮点眼剤 (プリモニジン) : テブダック投与直前に 1 回

ドライアイ治療用点眼剤 (ヒアレイン、ムコスタ、ジクアス) : 投与日から投与終了後 30 日目まで

冷却パック : 投与開始 5 分前から終了後 30 分間

※2 防腐剤やヒアルロン酸ナトリウム等の粘稠性の高い成分を含まない人口涙液 (一般用医薬品のみ) の使用を推奨 (下表参照)

商品名	参考価格	内容量 (箱)	用法・用量	開栓後の使用期限	成分
ソフトサンティア <sup>®</sup>	968 円	5mL×4 本	1 回 2~3 滴、1 日 5~6 回点眼	10 日	塩化カリウム : 0.1%/塩化ナトリウム : 0.4%
なみだロート <sup>®</sup> ファイブ	825 円	4mL×5 本	1 回 2~3 滴、1 日 5~6 回点眼	14 日	塩化カリウム : 0.1%/塩化ナトリウム : 0.4%

参考資料 : ロート製薬商品情報サイト、参天製薬商品情報サイト、第一三共株式会社資料、各添付文書  
本件の問い合わせ : 薬剤部・製剤室 (内線 : 2708)